



## 1 竹の有効的な防除

竹はイネ科タケ亜科の多年生植物で、成長する速度が速く、中が空洞で節がある構造が特徴です。木のような強度としなやかさを併せ持ち、古来より籠や竹細工、建築資材として利用され、日本の生活において非常に身近な植物です。

竹が最も伸びる時期は春から初夏(4月～6月頃)で、日中の気温が15度以上、夜温5度となり土壤に適度な湿度がある環境で急速に成長します。その成長速度は驚異的で、タケノコから2～3か月で10～20mの成竹となり、1日で1mを超える成長をすることもあり、度々ご近所トラブルとして取り上げられることもあります。今回は、やっかいな竹を手軽に枯らす除草剤として、『デゾレートAZ粒剤』と『クロレートS粒剤』についてご紹介します。

どちらの剤も有効成分は塩素酸ナトリウムの粒剤で、散布から1か月ほどで効果が発現して、竹の根まで枯らす事ができます。散布の適期は竹が活発に成長する4月～6月よりも1か月早い3月～5月となります。また、秋の9月～11月に散布することで、地下茎に薬剤が浸透し、翌春のタケノコの発生を抑制することができます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
効果○		効果◎			効果△
<p>春散布</p> <p>効果発現 15～30日 枯死 30～60日</p>					
7月	8月	9月	10月	11月	12月
効果△		効果◎			効果○
<p>秋散布</p> <p>効果発現 30～60日 枯死 200～280日</p>					

散布方法:竹の株元だけでなく、半径2～3mの範囲の土壤に均一に散布する

散布量:1㎡あたり45～60g(1袋5kgで畳6畳分)

散布場所の枯葉や雑草を取り除いて土壤に直接散布すると効果がより高まります。

注意点:傾斜地では、雨で流出して周囲の作物に影響を及ぼす可能性があるため使用は控える。

降雨前の散布は成分の流出の恐れがありますので、降雨後の土壤が湿っている時の散布をおすすめします。

クロレートS粒

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
樹木等	公園、堤とう、 駐車場、道路、	一年生及び 多年生雑草	雑草生育 初期～中期	15～25kg/10a	3回以内	植栽地を除く樹木等の 周辺地に雑草茎葉散布
		ササ類	雑草生育期	45～60kg/10a	1回	植栽地を除く樹木等の
		竹類	竹類生育期			
		スギナ	秋冬期	30～40kg/10a		

デゾレートAZ粒剤

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
樹木等	公園、堤とう、 駐車場、道路、	一年生及び 多年生雑草	雑草生育 初期～中期	15～25kg/10a	3回以内	植栽地を除く樹木等の 周辺地に雑草茎葉散布
		竹類	生育期	45～60kg/10a	1回	植栽地を除く樹木等の

## 2 塩素酸ナトリウム粒剤 劇物から普通物へ

前項でご紹介した塩素酸ナトリウム粒剤(クロレートS粒剤・デゾレートAZ粒剤)について、現在の製剤は難燃性で、消防法で定められている危険物に該当しないことから、2025年10月29日に、劇物指定から除外され普通物扱いになりました。普通物となったことで従来の製品と内容物や用途、適用範囲に変更はありませんが、農薬譲渡書なしで購入・使用が可能で、よりお求めやすくなりました。

水に希釈して使用する水溶性タイプにつきましては引き続き劇物指定のままです。お求めの際は、印鑑のご用意などご注意ください。

注意: **医薬用外劇物**のマークが記載されていても普通物扱いのため、他の劇物とは分けて保管してください。新包装に代わり次第マークは無くなります。



### 3 茎葉除草剤の種類

暖かい春が始まると目に見えて植物の成長も早く大きくなり、雑草管理にも気を使う時期となります。代表的な非選択性茎葉除草剤の作用機作の違いと正しい使用方法をご紹介します。

茎葉除草剤は、発生後の雑草の地上部(茎・葉)に薬剤を散布して吸収させ、枯死させる後発生処理型の除草剤です。茎葉除草剤で有名なものといえば「ラウンドアップ」「タッチダウンIQ」「バスタ」「ザクサ」「プリグロックス」などがあり、これらの茎葉処理剤は、葉っぱにかけるという作業は同じでも、効果を発揮する仕組みが違います。それらは、触れた部位のみを枯らす接触型と、体内を移行し根まで枯らす吸収移行型(浸透移行性)の2種類に分けることができます。

接触型と呼ばれる除草剤は、薬剤が植物内を巡らず、薬剤がかかった部分のみを枯らすもので、局所的に枯らしたいという場面や根を枯らしたくない法面などで有効に使用できます。

吸収移行型の性質を持つ薬剤は、雑草の葉っぱや茎にかかると、植物体内を行き渡り薬剤がかからない部分(根)も枯らします。春先や梅雨時期など植物がよく成長する時期ほど移行性が高まり、より良く効果を発揮します。

このように同じ茎葉処理除草剤でも、作用機作が異なるため、「雑草の生育段階や種類」「散布液量・滴径」「季節・天候」などを考慮して薬剤を選択することが重要です。

近年はグリホサートに対して感受性が低下したオオアレチノギクやネズミギク、ヒシバが増加しています。除草剤を体系使用して抵抗性雑草の発生を抑えましょう。

系統	グリホサート系 (タッチダウンIQ・ラウンドアップ)	グルホシネート系 (ザクサ・バスタ)	パラコート・ジクワット系 (プリグロックス)
商品画像			
タイプ	浸透移行型	接触型	
効果	根まで枯らす	薬剤のかかったところだけ枯らす	
特徴・仕組み	植物が成長する仕組みを利用 植物が生育する暖かい時期の効果◎		光合成の仕組みを利用 温度に関係なく効果を発揮
おすすめ 散布時期	春先や夏場の雑草の生育が活発な時期		温度の影響を受けにくいため秋～冬の雑草の生育が停滞する時期

#### <利点>

- ・既に見えている雑草に狙いを定められるため、効果の確認が容易。
- ・多年生雑草や抵抗性発生圃場での抑え直しに使える。
- ・降雨後の再発生に追従可能。

#### <注意点>

- ・散布時の被覆ムラ、ドリフト、降雨による流亡に敏感。
  - ・散布後の土壌残効は基本的に小さく、再発生抑制は弱い。
- 散布の際は、ラベルをよく読み【適用場所・作物・対象雑草・使用量・回数・希釈倍数・散布間隔】を守り、保護具【手袋、マスク、ゴーグル、防水エプロン等を装着】して安全な作業を心がけましょう。

